



南十字星を「神武帝の劍^{つるぎ}」に

——海南島攻略に因みて——

聖戦は続けられて、わが戦線は既に支那全土に及び遠く「海南島」の敵前上陸となつた。……海南島の夜空……そこには麗はしい「南十字星」が輝いてゐる。この5月頃には宵の空に南中して壯嚴な姿を突立てゝゐる。今我邦では臺灣より南方へ往かねば見られぬこの南十字星。……想へば今から3000年の昔、神武帝が御東征の當時には、この大阪からでも南の地平線から10餘度の高さにこの十字星は見られた。神武天皇も恐らくこの「四つの星」を南天に御覧になりながら尊き建國への戦陣を進めさせられたことゝ祭せられる。この「四つの星」は實はその昔の神武帝の御劍のやうに見られる。

西洋では十字星を又「アマル王の劍」とも呼んでゐるそうだが、我々にしてみれば、今日この十字星は「神武帝の劍」として仰ぎたい。而かも昭和の大業聖戦は遂行され、今や測らすも建國の昔、神武帝を護りし十字星が、見ゆる處遠く海南島まで進軍して行つた事は實に意義深く、又偶然でもないと推察される。實に神業であらう。

茲に十字星を「神武帝の劍」として仰ぐ時、今日の陛下の御凌威の輝く海南島に日章旗を掲げ、夜空に神武帝が星々の間から皇軍を護り賜へると解するところが出來やう。

今後1萬年も経てば、地球の幾差運動によつて「神武帝の劍」は、南天から北へ移動して見え、再び日本内地の空に昇ることになり、御代は彌々榮える。

南十字星「神武帝の劍(つるぎ)」と呼び仰ぐ時、昭和の偉業は天上の星座の中にも意義づけつれ、記念せられることにならう。

(プラネタリウムにて海南島の星空を仰ぎつゝ、——高城生)

第18巻の總目次・索引

上記の希望者は至急事務所宛往復はがきにて御申込み下さい。